

# 意欲を持って、てきぱきと行動する子

八木恵美子

## 1 対象児のプロフィール

生徒名 K・T (女) 昭和40年10月28日 (中学部3年)

本校小学部より入学。ダウン症児

遠城寺式乳幼児発達検査

項目	移動	手の運動	基本的習慣	対人	発語	言語理解
発達年齢	4:8以上	4:4	2:3	4:8	4:4	4:8

WISC-R 35以下

### (1) 一般的特性

- ・身辺処理は確立していて、身のまわりをきれいにしている。
- ・融通がきかず、場面の変化に対応しにくい。
- ・物事に積極的に取り組もうとするが、新しい課題・難しい課題になると、すぐあきらめたり、尻ごみをする傾向がある。
- ・他人のやることをすぐやりたがるが、それを言動で表現できない。
- ・体力的に劣り、作業等が長続きしない。
- ・「眼球微動」があり、手先の巧み性や指先の力が弱い。
- ・本を読むことが好きで、昔話等よく読む。
- ・よく話そうとするが、早口で発音が不明瞭である。
- ・歌やリズムを好み、身体表現が得意である。
- ・つまづきや失敗で自信をなくすると、なかなか立ち直れない。

### (2) 家庭環境

- ・祖父母、両親、兄(高3)と本人の6人家族である。
- ・両親が教育熱心であり、母親は学校に協力的である。
- ・自営業であるので「鍵っ子」になることはないが、家では一人でぬいぐるみと遊んだり、テープを聞いたり本を読んだりして過ごすことが多い。
- ・大人ばかりで過保護に育てられていて、甘えたりわがままな態度をとることがある

## 2 問題点および取り上げた理由

- (1) 登校すると腹痛やねむけを訴え、玄関や教室入口で泣いたり、すわり込むことが

ある。特に月曜日が多い。

- (2) 体力がなく疲れやすく、作業学習との取り組みが長続きしない。
- (3) 調子の良い時・悪い時の差が大きく、良い時にはリーダーとしてみんなをまとめ友達の世話もするが、そうでない時が多い。

来年度は高等部に進学するので、学部行事・職場実習など少しでも積極的に参加でき、意欲の持続ができれば将来の社会的自立に有効と考え、はきはきと取り組む子をめざした研究と取り組んだ。

### 3 指導の重点と手立て

研究に当たっては、次のような指導方針で取り組むことにした。

- (1) 登校時の最初の出会いを大切にし、第一声の声かけを工夫し、意欲をもって朝の活動に入れるようにする。  
そのために、・家庭との連携を密にする ・「朝の会」では好きな歌やリズムを多く取り入れ、意欲的な活動が続くように配慮する。
- (2) 毎日の体力づくりでは、手・足の運動を中心にしっかり取り組ませ、体力づくりに努める。指導に当たっては、励ましの機会を多くして自信をもたせるように配慮する。
- (3) 「何を」・「何のために」するのか、できるかぎり話し合う機会を多く持ち、目的を意識した学習ができるようにする。
- (4) 「はり絵」・「つり金入れ」(軽作業)を通して、持続力や忍耐力を養うようにする。

### 4 指導の実践

#### (1) 朝の活動を通して

##### ①朝の声かけと「朝の会」

2学期より「生活リズムの確立」ということから生活ノートに、家庭での食事の様子、就寝、起床時間、排便の有無、手伝いなどを書いてもらうようにした。その結果、家庭での様子がよくわかった。調子の悪い時にはその原因がわかり、声かけもうまくでき、着替え、朝の会へとスムーズに入っていけるようになってきた。K子の方でも意識して早寝、早起きをし、朝食をとり排便もしてくるようになり、「ねむたい」、「おなかがいたい」などと言ってすわり込むことがなくなってきた。

朝の会では、K子の好きな歌やリズムを多く取り入れるようにした。毎日の「どこでしょう」、「ひげじいさん」、「野ねずみの歌」等の他に「今月の歌」で9月は「虫の声」の歌と合奏をした。また、運動会のピアノカ鼓隊である「キラキラ星」、「ちょうちょ」の合奏練習もほとんど毎日した。身体表現をするようK子に言

うと、「まかせといて」とはりきって取り組み、10月は「大山林間学校」で歌う歌の振り付けを自分で考え、みんなに教えた。11月は「たき火」と交流発表会に歌う歌をはりきって歌い、12月も1月もみんな自分で振り付けをしてみんなに教えた。

歌だけでなく、日記は毎日欠かさず1ページにびっしりと書いてきて発表した。他の生徒の発表に質問をしたりすることもできるようになり、友達の世話をしたりはきはきとするようになってきた。

## ②体力づくり

7月までは走ることが中心であったが、9月からはサーキット、リズム、ボールの三つの運動を中心に切り替えた。どの運動の時にも裸足にならせ、特に準備運動やリズム運動の時には、手、足の指を重点的に使わせるようにした。そして、動きの上手なK子を前面に出し、ほめて自信を持たせるようにした。リズム運動の日の前日から楽しみにし、家の人の前で練習したり、よく話をするようになったということであった。朝の会が終わると進んで裸足になり、真っ先に体育館に出て中Cのみんなを並ばせるようになった。リズム運動の時だけでなく、サーキットやボール運動の日にも、はきはきとするようになってきた。1学期には、ちょっとしたことで「えらい」、「足がいたい」などと言って休もうとしたり、ぐずぐずした態度がみえたが、2学期には、そういう態度があまりみられなくなった。

## (2) 生活単元学習を通して

### ①「クリスマス会」での場合

3年生である中Cが中心になって、「クリスマス会」を進めていくことになったクリスマス会の目的、中Cのする仕事、それぞれの生徒が受け持つ役割など、学級委員であるK子を中心によく話し合わせ、意欲的に取り組ませるようにした。大きなめくりのプログラムをK子が毛筆で書き、「おわりのことば」もK子が「最後だから言わせてください」と自分から進んで言った。出し物の劇「マッチ売りの少女」では、ナレーターの役を引き受け毎日、学校でも家でも練習をし、長い文を空で言えるようになり当日は、はりきってした。期末懇談の時に、母親が「2学期は家でも生き生きとしている」と喜んで話された。

### ②「学習発表会」での場合

中学部の劇は「白雪姫」をすることになった。生徒と先生とみんなで役を決め、K子は白雪姫の役になった。大喜びのK子は台本をもらおうとすぐ、自分の言う台詞に赤鉛筆で○印をつけ、毎日練習をした。台詞をゆっくり、はっきりよくわかるように言うよう練習をさせた。動作も大きく、はきはきとさせるようにした。はじめは、恥ずかしそうにしていたが、だんだんのってきて、自分で動作を考えてするようになってきた。寝ごとにも台詞を言ったり、日曜日には一日中、一人で練習をし

ているというぐらいの熱の入れようであった。毎日、一生懸命に取り組み、はきはきとしていた。

### (3) 「はり絵」・「つり金入れ(軽作業)」を通して

10月に中学部のいもほりをし、その時の様子をはり絵にし「卒業製作」にすることにした。「みんなで協力して、2月までには仕上げ、りっぱな卒業製作として残そう」と、目的意識を持ち取り組んだ。紙を小さくちぎり、台紙(ベニヤ板)の下絵にはっていった。K子にとっては、紙を小さくちぎって線からはみださないように、すき間をあけず重ねずにはるというような作業はとても難しいことであったしかし、小さくちぎる練習をし毎日、少しずつはっていくうちに、だんだん絵ができてき、自分がはった所が多くなっていくので喜び、意欲を持って取り組むようになった。同時に、同じような大きさにちぎり、こつこつとはるができるようになった。

「つり金入れ(軽作業)」では、作業をして得たお金で「中学部のクリスマス会をする」という目的を持ち、1週間に4時間程度ではあったが、根気強く作業をした。中教員の職場実習(3日間)も中学部最後の職場実習(3日間)でも、9時から4時まで、だまって根気強く仕事ができるようになった。

## 4 考察と今後の課題

生活ノートで毎日の家庭での様子、学校での様子などを詳しく連絡し合ったり、電話や家庭訪問で家の人とよく話し合ったことは、K子の甘えやぐずぐずした態度をなくするのに大変効果があったと思う。体力づくりでは、進んで取り組みはきはきとしていたが、2学期の終わりに、冷たくて裸足になるのがいやで消極的になっていた。いろいろな行事には積極的に参加し、役を引き受け一生懸命練習した。作業学習や職場実習では、最後までこつこつと取り組み、持続性・忍耐力もついてきたように思うしかし、作業や学習で本児が意欲的に取り組んでいる時、何かの事情で中断しなければならなくなったりすると、なかなか次の取り組みができなかったり、注意されると落ち込んでしまうことがあるので、納得して次の行動がさっとできるように指導を続けていきたいと思う。